



第45回キワニス社会公益賞贈呈式 2011.7.1

社会公益委員会は、会員を始として各種団体から甲乙付けがたい13団体の推薦を受け、1年間におよぶ選考作業の結果、『特定非営利活動法人社会的養護の当事者参加推進団体「日向ぼっこ」』を受賞団体と決定し、7月1日金曜日の例会席上で、社会公益賞の贈呈式を執り行いました。

「生まれてきて良かった、これから幸せになろうという思いは持てなかった。」

虐待を受けたり、子育てを放棄されたりした、実際上親がいない4万人の子どもたちが施設で養護されている。なのに、子どもたちが受けるサービスがどのようなものをチェックする人がいないなどの現状報告と受賞者紹介が大庭社会公益委員長からあり、伊藤会長より社会公益賞が授与された後に、受賞団体理事長の渡井さゆりさんが語られた言葉です。

今年度の社会公益賞は、日向ぼっこの「同じ環境で苦しむ若者達へ相談と憩いの場を提供する」という活動もさることながら、「社会的養護の当事者として行政に対し現行サービスの改善を提言する」という未来への活動に対して高評価を与えています。

キワニスクラブの社会公益賞が、「世間に知られず酬いられることも少なく、永い間献身的労苦を続けておられる人達を広く探し求め、その功績に敬意を表すると共にその尊い存在を世間に紹介しようとするもの」であり、「社会福祉対策が政府においても、民間においても積極的に取り上げられ、満足な施策が講ぜ

られるよう出来る限りの運動を展開しようとするもの」でもあることから、今回の「日向ぼっこ」は、まさに同じ理念を兼ね

備えている素晴らしい団体ではないでしょうか。

渡井さんは、「高校卒業まで社会的養護の下で育ててもらえたことを本当に感謝している」と言いながらも、「物心(ものごころ)ついた時には、施設の職員達は仕事で私の事を育ててくれていて、私も迷惑をかけないようにとの義務感で生きてきた」とも語られています。

「ものごころついた時」の「物心」は、物心両面の「ぶっしん」とも読みます。子ども達に「物」だけでなく「心」をあげる事がいかに難しいか、それは当事者にしか解らないのかも知れません。

社会的養護施設に育つ子どもたちが、「生まれてきて良かった、これから幸せになろう。」と思えるよう、自分達のような活動が要らなくなる社会を目指して頑張るといふ、社会的養護の当事者参加推進団体「日向ぼっこ」を、東京キワニスクラブ会員一同これからも熱く応援します。

(社会公益副委員長 竹嶋 一久)



第27回青少年教育賞表彰式・講演会 2011.9.17



今年度の青少年教育賞表彰式・講演会が9月17日(土)13:30から17:10まで、伊藤忠商事(株)本社ビル10階会議室で開催された。147名が参加、その中約110名が車椅子利用者を含む一般参加者であった。伊藤会長は開会の挨拶の中で、参加者を歓迎、東京キワニスクラブと青少年教育賞を説明、また表彰される若者達の素晴らしさを紹介された。その後、公益社団法人日本フィランソロピー協会の高橋陽子理事長が、「青少年の社会貢献～キワニスとともに」という演題で講演をされた。米国のpenny harvestの話、理想を達成するために

は本気で人の力を借りるという話、障害者も働けという話などが、印象的であり、大変分かり易い講演であったと参加者がアンケートで回答した。

表彰式では、最優秀賞に Live on、優秀賞に東京少年友の会学生ボランティアと STREET 介護ファイター TOMOYA (SOCIAL WORKERZ) が選ばれ表彰された。Live on の代表者は、大学入学直前に父の失踪、その後、母の自殺という難局に直面しながら、自ら立ち上がって、大学生時代から、自死遺児の支援を中心に、若い世代にいのちの大切さを伝えてきている。学生が中心になり、自死遺児のこころのケアサポートをおこない、中学・高校でのいのちの授業を行ったり、また母の日の文集を発行したりしている。東京少年友の会学生ボランティアは、家庭裁判所から依頼を受けた、非行をおかした少年について、学生が中心になり、家庭教師活動や友達活動、少年や保護者との合宿、地域美化活動参加サポートなど、非行をおかした少年のお兄さん・お姉さんとして、少年に寄り添い、立ち直りを促している。STREET 介護ファイター TOMOYA は、音楽とダンスと福祉を結び付けるという考えで、福祉施設を訪問し、ヒップホップダンスで障害者を励まし、元気付けてきている。音楽とダンスで、言葉のないコミュニケーションを通じて、人と人との間の障害を取り除くというものである。これら 3 受賞団体と昨年度の最優秀賞受賞団体 CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会が、それぞれ挨拶と発表（ヒップホップダンスの実演も含む）を行った。

更に、その後、参加者が 10 グループに分かれて、学生とボランティア活動につき意見交換を行い、各グループの代表がその結果を報告した。中学生からシニアまでの幅広い年齢層が同じテーブルで話し合った。「今は、

ボランティアをすると大学の単位になるのですか!」というシニアの驚きに対し、「就活に有利になるという話もあります」

と若い人が答えていた。様々なやり取りが活発に行なわれた。

最後に、総括と挨拶を行った堀井副会長は、①受賞団体や参加者の話を聞いて、日本の社会は変わっていくと感じた、②キワニスは異世代の人達と一緒にになれる場を作りたいと指摘し、一日を締めくくった。

参加者へのアンケート結果、次のようなコメントが届けられ、青少年教育賞表彰式・講演会に参加して良かったとの声が多く、9月17日のイベントは成功裡に終了できたと言える：①受賞団体の挨拶、活動内容の紹介は素晴らしかった、②緩急のついたイベントだった、単なる授賞式ではなく、出会いを産む仕組みが素晴らしかった、③非常に貴重且つ有意義な会だった、ボランティアに関する人の思いやパワーを感じることができて、もっと頑張ろうと思った、運営本当に有難うございました、④刺激になった、参加して良かった、⑤素晴らしかった、⑥またこのような様々な団体が交流できる場を作って頂ければ嬉しい。

今年度の表彰式・講演会は、公益社団法人日本フィランソロピー協会の後援、伊藤忠商事(株)、(株)東芝、サッポロ飲料(株)、サッポロファインフーズ(株)の支援を頂いた、厚く御礼申し上げます。

(前ボランティア活動委員長 松見 芳男)



国際キワニス年次総会ジュネーブ大会 2011.7.6~9

第96回目の国際キワニス年次総会はその開催地を久方ぶりにヨーロッパに移し、7月6日から9日までジュネーブ(スイス)の伝統ある大きな国際会議場で開かれました。スイスフラン相場高騰の影響もあってかヨーロッパ各国からの参加者が期待されたほど多くなく、全体で約2,500名と前年のラスベガス大会(6,000名強)をかなり下回りました。日本からは東京クラブの13名を含め前年並みの24名が参加しました。

こうした中で今回の大会は Eliminate Project (〈破傷風から世界中の母と子を守ろう〉運動) に始まり、Eliminate Project に終わったといってもいいほど見事に演出された画期的なものでした。即ち、まず開会式では、動物行動学の世界的権威でかつ国連平和大使も務めた Jane Goodall 博士の基調講演に続き、直ちに Eliminate Project の募金キャンペーン委員長 Randy

Delay氏が登壇し、キャンペーンの正式なキックオフを発表、これまでの経緯、今後の戦略等につき概略説明が行われました。

これを受けるかたちで、KeyクラブとサークルKの若くて活気あふれる男女の会長がプロジェクトへの積極的協力支援を力強く宣言するという実に良く練られた演出による数場面が展開され、場内はキャンペーン始動に向けて一段と盛り上がりを見せました。

また、閉会式では、優れた社会貢献者を表彰する「キワニス世界奉仕メダル」が今年度は米国の有名な女優 Jamie Lee Curtis (俳優トニー・カーティスの娘) に贈呈されましたが、彼女は受賞に先立つスピーチで Eliminate Project の意義深さに言及するとともに自ら



キワニスクラブに入会して、そのために活躍することを表明し、場内から大喝采を受けました。閉会式のフィナーレは Alan Penn 次期会長が大勢の次期ガバナーを伴って登場、キャンペーン立上げ第一期目に乗りに出す決意と活動方針を力強く表明しました。

一方、大会期間を通して、会場内に国際キワニス財団のブースが設置され、既に率先して寄付したクラブや個人を顕彰（例えば Charter Zeller Fellow や 100K クラブなど）したり、授章者一覧を大きく掲示するなどムード作りに懸命の様子が伺われました。

大会のもう一つの大きなテーマは役員選挙でした。Alan Penn 次期国際会長、Thomas E. DeJulio 副会長が其々国際会長、次期国際会長に選出された後、副会長には 3 人の立候補があったため、投票用紙を用いた選挙（去年は電子投票）の結果、オーストリアの Gunter Gasser 氏が当選しました。一部の国際理事 (trustee) 選挙もありましたが、ここでは省略いたします。

国際キワニス専務理事の業務経理報告も重要事項ですが、その中では、クラブ新設、会員増強の面でアジアを除き総じて不本意な状況が続いているので、メ

ンバーシップの弾力化、多様化に取り組んでいることや、Service Leadership Program に一層注力して



いる成果として、Key Club, Builders Club, K-kids, Aktion Club の会員数が過去最高ないしほぼ最高という好成績を示しているとの報告が目されました。

なお、今後の世界大会の開催地につきましては、明年（6月28日～7月1日）はニューオーリンズで、2013年はバンクーバーで開催されることが決定しておりますが、2014年は10月の理事会でASPAC内のマカオカメルボルンのいずれかが選ばれる予定です。更に、キワニス誕生100周年を祝う2015年の候補地としては目下ボストン、デトロイト、インディアナポリス等5都市が検討されている模様です。

（前日本地区事務総長 秋山 誠一）

第35回国際キワニス日本地区年次総会千葉大会 2011.9.9～11



千葉大会は、まず東日本大震災と台風12号の犠牲者への黙祷から始まった。「手作りコンパクトな大会」（瀧

場千葉クラブ会長）には約330人のキワニアンとその家族（東京クラブからは27人）海外からオスカー・E・ナイト氏（国際キワニス理事・日本担当カウンセラー。米国）及び金氏（元KIF理事・元韓国ガバナー）その他来賓多数が出席し、大会前の「キワニスの明日を語る会」をはじめ懇親会に至るまで実り多い会となった。

「キワニスの明日を語る会」では、破傷風菌発見者である北里柴三郎博士の孫に当たる北里一郎氏（元明治製菓社長・会長）から博士の業績について興味深い講演があった。

●川崎ガバナー挨拶（要旨）

この1年を振り返ると、残念ながらクラブの新設はなかったが、新設に向けての胎動は感じられた。会員数は7月末に1659人（4%増）で過去最高となっている。皆さんと共に喜びたい。

大震災への義捐金は海外1800万円余、国内各クラブから1850万円余合計3700万円に達した。この使途については、被災地の仙台、福島、札幌、千葉の4

クラブでYCPO（Young Children Priority One、子ども最優先）の目的に合致するように使ってもらうことを役員会で決議したので報告する。

台風12号の被害者は100名を越えている。これについてもKJFと共に新たに義捐金の募集を呼びかけることにした。

この1年のご支援、ご指導有難うございました。現在の経済社会情勢の下難しいことも多いだろうが、更なる活動の充実を期待する。

続いてオスカー・E・ナイト国際理事から「人と人の絆、隣人と隣人の絆、町と町の絆を大事にしよう。北里柴三郎博士の母国としてMNT（Maternal/Neonatal Tetanus、妊産婦・新生児破傷風）のプロジェクトへも協力を期待する。」と挨拶があって議事に入った。

●大会で採択された決議

1 平成24年9月期の事業計画及び予算

- ①各クラブ5%以上の会員純増、2クラブの新設
- ②エリミネイト・プロジェクトへの協力、国際会議への積極的な参加、KIFへの資金協力
- ③東日本大震災被災地の子どもたちのために義捐金の長期間にわたる有効活用、キワニスドールの普及活動の拡大、児童虐待防止活動の前進、キワニス・ワン・デー（4月21日）の実施、優れた奉仕活動の紹介普及等
- ④キワニス日本財団（KJF）と連携した国内外の大規模災害に対する義捐金募集、各クラブの優れた公益奉仕活動への資金援助、一般公募による優れた公益奉仕活動への資金援助、「日本キワニス文化賞」

「英雄的自己犠牲賞」の授賞⑤その他委員会の一層の活用、各種表彰の一部見直し。

2 役員を選任

次期ガバナー（2013年9月期ガバナー候補者）に北里元東京クラブ会長

事務総長（2012年9月期）には吉田前東京クラブ事務局長

その他の役員は齋藤新ガバナー（名古屋クラブ）の指名

新設されたエリミネイト・プロジェクト推進委員長に北里元東京キワニスクラブ会長が指名されている。

3 第37回日本地区年次総会（2013年9月）新潟

4 千葉大会決議（4項目）

YCPO、キワニス活動に賛同する仲間の増大のほかに「東日本大震災からの復興をみんなで応援しよう」と及びエリミネイト・プロジェクトへの積極的参加。

●報告事項

1 決算見込み

今年の決算は18万9千円の赤字見込である。

2 KJF 佐藤理事長報告

財団の運営費の状況が説明され、基金への積極的な寄付を呼びかけた。

3 北里エリミネイト・プロジェクト推進委員長報告

我が国は大震災で大変な時期であることは各国にも話してあるが、大震災支援とエリミネイト・プロジェクトは同時並行的に実施していくべきもの。IDDに続く2番目のビッグプロジェクトであり、既にユニセフが2000年からの10年間で世界60カ国の対象国のうち20カ国は根絶に成功し、残り40カ国となっている。この運動は今まで以上に対外的に発展してきており、キワニスクラブの対外イメージ向上にも寄与するであろう。日本地区の目標を達成するには2015年9月までの4年間に6300万円、およそ会員一人当たり年1万円相当である。これはIDD(Iodine Deficiency Disorders、ヨード欠乏症)で会員一人当たり9万円超を出したことから見ても達成可能であろう。1250ドル以上の寄付にはウォルター・ゼラー賞がある。この9月末までにこの賞を受ける人にはチャーター・メンバーとして「CHARTER」の文字の入った襟章が交付される。金額に応じてその他の表

彰もあり各クラブの協力を希望する。

●齋藤次期ガバナーの方針説明

「絆」をキーワードにYCPOのモットーに沿って、生まれてきて良かったと思える世の中を作るために行動しよう。

●大江和歌山クラブ会長挨拶

台風12号による災害への義捐金募集に感謝する。千葉とは歴史のご縁がある。次回大会も今回と同様なコンセプトで実施したい。世界遺産や温泉に恵まれた和歌山に大勢の来場をお願いする。

●表彰式

1 第47回日本キワニス文化賞

上総鉄の作者 大野正敏氏（76）市原市在住

2 ロバート・P・コネリーメダル 神定卓司氏（39）

平成19年2月マンション2階で火災発生、ベランダに人がいるのに気づき、玄関から入れず雨どいを伝ってよじ登り女性を救助した。

3 国際、日本地区及びKJFより、優秀クラブ・個人等の表彰があった。

●懇親会

懇親会は森田健作千葉県知事、熊谷俊人千葉市長ほか日本キワニス文化賞とコネリーメダルの



受賞者ご夫妻並びに関係者も参加して、銚子から来た勇壮な太鼓の演奏が前後二回ある中、和やかに行われた。終盤には太鼓の伴奏で「大漁節」の踊りも披露され、ナイト国際理事、川崎ガバナーらも壇上で共に踊ってお開きとなった。最後に来年の大会を主催する和歌山クラブからの参加者27人が揃いの法被姿で大勢の参加を呼びかけたのは圧巻であった。

なお、大会の間に受付で募集された台風12号災害への義捐金約28万円が、瀧場千葉クラブ会長から大江和歌山クラブ会長に贈呈された。

●エクスカーション

千葉クラブの企画により、香取・佐原地区の日帰り旅行及び銚子地区を加えた1泊2日の旅行が実施され約62人が参加した。

（前会長 伊藤 康成）

東京キワニスクラブ定時総会 2011. 9. 16



9月16日12時45分より恒例の定時総会が霞が関の法曹会館高砂の間で開催されました。議題は1. 東日本

大震災被害者支援策（被災地の水産高校生に支援金を送ろう）とメルシー基金取り崩しの件 2. 一般社団法人への移行（定款案及び定款案に基づく総会決議案）の件 3. 平成24年9月期事業計画並びに収支予算書の件 4. 平成24年9月期（社）東京キワニスクラブ理事・監事の件の4件でした。

先ず議長の伊藤会長から開会の宣言がなされたあと、出席状況について会員総数 222 名の内会員 77 名の出席のほか 85 の議決権行使書の提出があり合計 162 名の参加で 3 分の 2 の 148 名を超えていることから、定款の規定から総会は有効に成立しておりかつ定款の改訂も可能と吉田事務局長から報告がなされました。

次に議事録署名人 2 名が指名されたあと、各議案の審議に入りました。役員会から付議された前述の第 1 号議案から 4 号議案まで趣旨説明から質疑を経て全て異議なく承認されました。普段の定時総会に比べ審議案件が多くまた熱心な質疑が展開されたことから予定より 15 分長い総会となりました。

平成 24 年 9 月期の役員も満場一致で選出されたため堀井紀壬子会員が東京クラブでは初の女性会長の誕生となります。そして次期会長候補の緒方謙二郎会員

を含め 19 名の理事と 3 名の監事が堀井会長を支えていくことになります。

定時総会の終了後伊藤現会長から今年度の事業の総括と会員の協力に対するお礼が述べられ、堀井新会長からは挨拶と共に次年度のクラブ運営に関する抱負を述べられました。そして吉田現事務局長並びに藤井新事務局長からも一言挨拶とお礼が述べられました。

次年度は東日本大震災被災者支援を引き続き行っていくこと、また母子感染の破傷風を撲滅させる「エリミネイト」募金活動を展開させていくこと、そして準備が整い次第一般社団法人への移行を実現させることを重点施策として堀井新会長の下、東京クラブの更なる発展と奉仕活動の一層の充実を計っていくことが期待されます。

(前事務局長 吉田 浩二)

キワニスドールを作る会 2011. 6. 18、7. 19、8. 25

●田園調布学園 2011. 6. 18

田園調布学園ではキワニスドールの作成をかねてからカリキュラムに組み入れておられ今年度は 1 月 22 日に次いで今回が 2 回目となりました。

田園調布学園は去る 5 月 14 日に開催された第 3 回キ



ワニスドール・シンポジウムにも先生と多数の生徒が参加されました。このようにキワニスドールの作成に從來から極めて積極的な取

り組みをされております。今回も会場が満席になるほど多くの生徒の参加で大変盛況でした。

特にこの日は明治学大学のボランティアグループの学生 5 人の参加もいただき会場の雰囲気さらに盛り上がりました。

●女子美術大学院 2011. 7. 19

女子美術大学院では、芸術学部・ヒーリング表現領域の学生とゼミの教授を中心に「キワニスドールの講習会」としてドール作りに携わって頂いていて、今回が 2 回目になります。この会の特徴は、ドール製作は勿論ですが、教授も含め意見交換の時間をたっぷり確保することに有ります。ヒーリングデザインの実際、小児科病棟のデザイン・建築の具体化施設まで、様々なお話が伺える貴重な場でも有ります。

そして、今回のみなさんからの感想は

・病気の子どもたちを支える存在であると思うと、ちぎり綿一つにも愛しさが湧くと同時に、いい加減な出

来上がりでは受け取った子を支援られない!との緊張と責任を感じた。

- ・母国ではこのボランティア活動が見られないので、拡がって欲しい。一生懸命に作った気持ちが子どもたちに届くよう祈ってます(海外留学生)。
 - ・医療用だけではなく、たとえば震災後の支援等の使い方が考えられると思いました。
- などなど。

更に今回は特に、学内に立ち上げて居る「震災地支援プロジェクトチーム」にもお邪魔して、ドール活用の現状をお話する機会も設けて頂けたことです。

罹災児童の心のケアに資するアイデアに繋がることを期待すると同時に、私たちが出来ることから確実に進めて行きたいと強く心に期した一日でした。

●目黒星美学園 2011. 8. 25

目黒星美学園のキワニスドールを作る会では、5 月に開催されたキワニスドール・シンポジウムの記録 DVD が完成しましたので、会の冒頭この DVD を披露いたしました。生徒の皆さんは熱心に鑑賞しておられましたが、グループディスカッションの発表の場面で目黒星美学園

の生徒が登場すると、どっと歓声が上がりました。

今回の



作成では完成する数よりも完成品の質の充実に重点をおくようお願いしたところ出来上がったキワニスドールはいずれも立派なものですべて合格でした。今後こうした会では質の充実を大事にすることが必要と感じました。

この日は参加した生徒の皆さんが事前にクッキーを焼いてくださったことから最後の反省会は美味しいクッキーとお茶で楽しいひと時となりました。
(ボランティア活動委員長 高坂 和夫)

キワニスドールサークルが二つ発足しました 2011. 8. 9、2011. 9. 8

ドールづくりを目的に2つのサークルが新たに立ち上がりました。

- 都立広尾看護専門学校のキワニスドールサークル（8月9日）
- 多摩市ボランティアグループ「小さな天使」（9月8日）です。

スタートに当たって、ボランティア活動委員会の星と松本がお邪魔をし、キワニスクラブの紹介、ドール製作の趣旨、製作上の留意点などをご説明、意見交換

の場も設けて頂きました。

今後、定例的に集まり、ドールをつくって頂けるとの事で、子どもたちのドールを抱く姿を思い浮かべながらドールを仕上げて行きたいと、心強い決意を伺って参りました。

例会日には当委員会からも出来るだけ一緒に、子どもたちから喜んでもらえる抱き心地の良い製品にしていきたいと思っています。

(前ボランティア活動委員長 松本 一紀)

キワニスドールを利用した「お絵かき会」の実施 —避難施設の子どもたちとの交流— 2011. 8. 29



大震災の後、避難所での状況が伝わる中、浮かんでいたのはハイチ大地震の際に各国から現地の子どもたちに送ったキワニス

ドールのことです。

ハイチのその後の情報も無く、単に届けるだけで役に立ったのかどうか、と云う思いも有って、何とかして子どもたちに直接ドールを届けられないだろうか、また話し相手にもなってあげられないだろうか、と考えていました。

そんな折に帝京平成大学の赫多先生にご相談に乗って頂き、学生のみなさんを参加させて下さるとのお話しも頂戴しまして、イメージが固まった所に、ドールシンポジウムにおけるパネリストの風間先生の現地での経験談なども伺ったことで、一挙に具体的な方向が固まって行きました。

訪問先は制約が有る中、町役場との事前調整なども経て、加須市の避難施設の子どもたちとしました。8月29日約2時間弱ではありましたが、帝京平成大学の赫多久美子先生と学生4名、都品川特別支援学校教育支援コーディネーターの宮嶋祐紀子先生の参加を頂き、当クラブからは伊藤会長、堀井副会長、委員会メンバー数名、事務局1名も加わりました。当日の模様は赫多先生からのご寄稿の通りです。

会場へ来てくれた子どもたちは4名でした。この数字をどう解釈するか議論は別にして、キワニスドールを活用した云わば大きな実験と考えています。

若い人たちに子どもたちとの触れ合いの場を提供することも、ボランティア活動の大切な要素では無いでしょうか。幾つかの反省点を踏まえ工夫を語り、子どもたちの避難生活が続く限り、続けて行きたいと思います。

なお、この活動に対し、井戸川 克隆双葉町長様からお礼のお手紙を頂きました。

(前ボランティア活動委員会委員長 松本 一紀)

拝啓 このたびは双葉町民に対しまして、御厚情あふれる御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、3月11日の東日本大地震により、双葉町においても尊い命と財産を失い、さらに原子力発電所の事故により町民全員が避難生活を送ることを余儀なくされています。

失意の中にあつて、全国の皆さまから励ましのお言葉や心温まるご支援、沢山の物資などを賜り、感激の極みであります。今回の活動のご支援、本当にありがとうございます。

皆様のお気持ち町民全員の力強いエールとなり、温かい励ましとなっております。復興はまだまだ先行が見えませんが、町民一同、一日も早く双葉町へ帰ることを心の支えとしながら、頑張っております。

どうぞ今後とも、ご支援や励ましのお言葉を賜れば幸いです。この度のご厚情に対し、参上して御礼を申し上げるべきところ、誠に恐縮ですが、取り急ぎ書面を持ちまして御礼に代えさせていただきます。

誠にありがとうございました。

敬具

平成23年9月吉日

各 位

双葉町長 井戸川 克隆

「病気や障害のある子どもたちを笑顔にしてくれるキワニスドール…このドールを、震災で被災した子どもたちのもとへ届けることはできないだろうか。」

4月、ボランティア活動委員長の松本様とお会いした際に、提案させていただいたプランが、「ドールお絵かき会」というかたちで8月29日に実現しました。東京キワニスクラブの皆さまの全面的なご協力あってのことです。感謝を込めてご報告をさせていただきます。

この企画には、私が担当するセミナーの女子大学生4名がボランティアとして参加させていただきました。彼女たちは将来幼稚園教諭を目指しており、セミナーでキワニスドールに顔や服を描く体験をしています。また、元同僚で先日のシンポジウムのパネラーの1人、宮嶋祐紀子先生も応援に駆けつけてくださいました。

東京キワニスクラブの皆さまと私たちが向かった先は、埼玉県加須市の避難所です。廃校となっていた高校校舎に、福島県双葉町の住民の方々約800名が町役場の機能とともに集団で避難しておられます。ここでは、震災から半年経った今も、先が見えない避難生活が続いています。

当初の計画では、3歳から6歳くらいまでの10名の子どもたちとその保護者等20名ほどの参加を見込んでいましたが、小さな子どもがいるご家族は移転して割合が少なくなっていることもあり、実際の参加は2組の家族6名でした。初めに4歳と6歳の姉妹がおばあ様と参加し、入れ替わりに別の姉弟が会場に来てくれました。後からお母様も様子を見にいらっしやいました。

子どもたちは、初対面のお姉さんたちを前に、初めはもじもじと恥ずかしそうなそぶりでした。しかし、キワニスドールに「お絵かき」を始めると声も大きくなり、いろいろ話し始めました。以下、学生のレポー

トから引用します。

「ある女の子が『パパはお仕事で居ないから、この人形はパパにする。』と言っていた。本当は家族みんなで生活したいのに、子どもなりに我慢をたくさんしているのだと女の子から伝わってきたことが、今でも忘れる事ができない。」

「話しをしているうちに、子どもが考えていることや、思いを知ることが出来ました。パパとママの絵を書いた子がいて、『パパお仕事であまり帰ってこないから、このパパ人形と寝よう。』と言い嬉しそうに人形を抱き締めている姿を見て、参加して本当によかったなと思いました。」

「笑顔を見せてくれていてもその裏にはきっと、小さな体で支えきれない程のストレスや悩みを抱えてしまっているのだと感じる。」

「人形に絵を書くというだけでも、子どもにとっては自分だけの大切な物になり、凄いパワーを持っているのだと感動してしまいました。」

「少しの時間でも子ども達が心から楽しかった!と言ってもらえる素敵な場になってよかったとおもいました。」

今回の活動を通じて「何かを与えようと思うことだけでなく、反対に受け取ろうとする気持ちや、その時を一緒に楽しむこと」(レポートより)の重要性に学生たちは気づくことができました。皆、「またこのような機会があったらぜひ参加したいです。」と申し出ています。

お絵かきをしながら優しいお姉さんが自分の話を聞いてくれる。みんなが自分のお人形を褒めてくれる。そのお人形を楽しい思い出とともに持ち帰ることができる。この「ドールお絵かき会」活動が、被災した子どもたちのために、今後も継続されることを期待しております。

田園調布学園「なでしこ祭り」

—「Heartfull: 思いやりでいっぱい」の学園祭— 2011.9.24~25



9月24日(土)、第58回目となる例年の学園祭にお邪魔をしました。今回のテーマがHeartfullとのこと。

お邪魔した一番の目的は、日頃キワニスドールの製作活動を通じてお付き合いのある「家庭部」の展示会場です。願いを

書いて貼れば希望を叶えてくれる大樹の精がいて、傍らに森の妖精たちがホットケーキと飲み物を楽しんでいる情景が有りました。

なんと、キワニスドールが様々な衣装をまとい妖精になっていたのです。間瀬先生のお話では、少し仕あがりのよくない(?)ドールをキワニスの事務局が探してくれたとのことで、ひょっとすると日の目を見る事の無かったドールがこんな所で主役となって楽しませられるとは、正に目から鱗です。15個ほどのドールが身に付けた衣装にしても、大変丁寧に、しかもデザイン

が全て違って出来ていて、生徒のみなさんのかけた時間と熱意が伝わって来ました。

また、キワニスクラブと学園とのドールにかかわる活動などを展示したコーナーまで設けて頂いて居ました。

そして学園祭 2 日間の家庭部の大きな目標は、身障者の方々が働く作業施設で作られているクッキー 1000 個の完売です。生徒たちが折に触れてお手伝いをしている福祉施設で作られているもので、クッキーやパウンドケーキ、アクセサリーの小品など、沢山並んで居ました。

かって当クラブの青少年教育賞特別賞も受賞した経験も有るこの学園、日頃から地味な支援活動を続けて居られる先生、生徒のみなさんには、心から敬意を表しつつ、会場を後にしました。十万円(1千個×100円)の売り上げ目標、達成できますように!

(前ボランティア動委員長 松本 一紀)



増上寺、寛永寺の特別拝観 2011.6.8

6月8日(水) 徳川恒孝会員の特別のご配慮で増上寺・寛永寺の特別拝観を会員家族等 48 人が参加して、梅雨の小雨のなか実施しました。

10 時増上寺大殿(本堂)に集合 本尊阿弥陀如来を参拝した後、光摂殿で笠原大定接伴課長から増上寺の沿革等のお話がありました。



増上寺は 1393 年に千代田区紀尾井町に創建され、1598 年徳川家康公の入府とともに現在の港区芝に江戸城拡張と裏鬼門

封じのため移転しました。江戸時代に入り徳川家の菩提寺となりました。

その後拝観したところは

- **光摂殿** 平成 12 年完成の修行道場 格天井には小倉遊亀、上村松園、加山 又造をはじめとする現代を代表する日本画家 120 名が、精魂こめて描いた草花図が奉納されている。(非公開)
- **徳川將軍家墓所** 戦前は大殿の南北に壮麗な霊廟が立ち並んでいたが、昭和 20 年の空襲で焼失し現在地に改葬された(通常は非公開 今年は法然上人 800 年御忌で 11 月 30 日まで特別公開中)
2 代秀忠公とお江の方 6 代家宣公 7 代家継公
9 代家重公 12 代家慶公 14 代家茂公 静寛院和宮
- **安国殿** 家康公が尊崇した黒本尊(秘仏阿弥陀如来)が祀られている
- **三門** 経蔵は戦災に遭わなかった建造物で、外から拝観(三門は 11 月 30 日まで 66 年ぶりに特別公開中)

増上寺から寛永寺へは貸切バスで移動 この頃から雨が上がり晴れてきました。

寛永寺では書院で昼食後 根本中堂(本堂 非公開)で薬師三尊、十二神将四天王を参拝後 浦井長膺か

ら寛永寺の沿革などについてお話を聞きました。

寛永寺は 1625 年天海僧正により徳川將軍家の祈願寺(後に菩提寺になる)と江戸城鬼門封じのため、比叡山延暦寺に倣って造営され、根本中堂、清水寺を模した舞台造りの清水観音堂、琵琶湖に見立てた不忍池をはじめ現在のの上野公園全体が寺域でした。

その後拝観したところは

- **徳川歴代將軍靈廟(非公開)**
第一靈廟(4 代家綱公 10 代家治公 11 代家齊公)
第二靈廟(5 代綱吉公 8 代吉宗公 13 代家定公と
天璋院篤姫 16 代家達さん 17 代家正さん)
3 月 11 日の地震で石灯笼がたくさん倒れていたが、凜とした木々のなかに眠る將軍を偲びながら非日常の世界に浸った。
- **葵の間** 15 代慶喜公が鳥羽伏見の戦いで劣勢になり大坂から江戸に戻りすぐ恭順の意を表すため 2 ヶ月間謹慎した部屋(非公開)
- **15 代徳川慶喜公墓所** 慶喜公は神式の葬儀のため、寛永寺の境内ではなく徒歩 5 分の谷中霊園に土饅頭型の上円下方墳で正室、側室、子供、2 代、3 代とともに葬られている
- **開山堂(両大師堂)、時鐘堂、上野大仏、清水観音堂、不忍池辯天堂**を僧侶の皆様にご案内いただき参拝した。



増上寺、寛永寺とも非公開な箇所が多いなか、徳川恒孝会員のお力添えで特別拝観ができ、参加者は深い感銘を受けることができました。

NHK 大河ドラマ「江」がきっかけで企画した拝観でしたが、平成 18 年 5 月実施した日光参拝を含めて全ての徳川將軍の墓所を参拝することができました。

(会員 小野 洋一郎)

平成 23 年 キワニス・サマーパーティー 2011. 7. 28

昨年のサマーパーティーは、赤坂でハワイアンパーティーだったが、今年は会場を銀座 7 丁目ライオンの 6 階クラシックホールで開催した。

7 月 28 日午後 6 時に集まったのは、会員 51 名そして家族とゲスト 15 名の合計 66 名。

銀座ライオンと言えば、ビヤホール発祥の地であるが、東京キワニスクラブの会員にとっては、昭和 51 年（1976 年）から火曜会を 2 階特別室で催しているお馴染みの場所だ。

6 階のクラシックホールにしたのには訳がある。今年は会員の漆間 巖さんとそのお仲間達による、ピアノ、バイオリン、チェロのピアノトリオ演奏会を兼ねたからだ。

伊藤康成会長による、開会のご挨拶と元気なキワニアンを願っての乾杯の後は、銀座ライオン特製の料理に舌鼓を打ちながら、飲物は、サッポロ生ビール（黒ラベル）はもちろん、赤、白のワイン、スコッチウイスキー、焼酎、日本酒、そしてオレンジジュースとウーロン茶が用意され、それぞれ思い思いの飲物を片手に、立食を利用して日頃ゆっくりお話ができない会員同士や、ゲスト、そしてパートナーのとの交流もあちこちに見られ、たちまちのうちに開場は笑いに満ちた、喧騒の坩堝と化した。例会やファミリーデーとはまた一味違った、いつもながらの和やかなサマーパーティーの風景である。

料理の食べ終わった頃合いを見て、急ごしらえのコンサート会場よろしく、レクリエーション委員が率先して



演奏の前に結構お酒も入っているし、小野寺さんは現役で勤務を終えての駆けつけの参加で、リハーサルは一切なし。

ところが始まってみると、一糸乱れぬ演奏で、一瞬の内で開場はうっとりとした雰囲気にも包まれた。常日頃からお互いの時間を都合して練習しているとは伺っていたが、ここまで息がぴったりとは！

2 曲目は、オリンピックアイススケートの荒川静香さんの優勝曲でお馴染みのプッチーニ作曲「トゥーランドット」のテノールのアリア。聞きなれた曲ということもあり、何となく会場は穏やかな雰囲気になる。

3 曲目は、「ブエノスアイレスの四季」（アルゼンチンのバンドネオン奏者で作曲家・アストル・ピアソラ作曲）である。これもスケートの高橋大輔が「冬」と「春」を演技曲として取り入れた曲でもある。今回は粋な計らいで、季節に合わせて、「秋」、「冬」、「春」、「夏」の順に一気に演奏された。四季を通して聞くことは少ないためか、みんな熱心に聞き入っていた。

最後の曲は、やはりピアソラの作曲で、「リベルタンゴ」で締めくくった。この曲は世界的なチェリストのヨー・ヨー・マが CM 演奏をしているので、知っている人も多かったが、小野寺さんのチェロも負けず劣らずの素晴らしい演奏だった。

漆間 巖さんのピアノ（譜めくりは牧子夫人）、バイオリンの田中敬子さん、チェロの小野寺健一さんの息の合った演奏に出席者一同大感激して、万雷の拍手の中で演奏会は終了した。

演奏終了後も余韻が残って、漆間さんとお仲間を囲んで、料理がなくなっても、お酒を飲みながら、かなりお話が弾んでいた。

締めくくりのご挨拶は、レクリエーション委員会の棚澤青路委員長。

いつもながらのウイットに富んだお話で、全員笑いに包まれたところで解散となった。

委員長のご挨拶の中にもあったが、またぜひ漆間さんには再登場してもらいたいというのが、会員一同の願いである。

（前レクリエーション副委員長 佐藤 隆國）

若手会員との意見交換会 2011. 8. 17

特に若手会員の増強と会活動への一層の参加を願うべく、幹部数名と若手会員 7 名との意見交換会を持った。

活発な意見交換が行われ、出された主な提案は、次の通り。

1. 「ユース会員制度（仮称）」を作るべし。ユース会員の会費は、低廉なものにする。年数回ユース会

員のみが集まる会を作る。ユース会員を獲得した時は、倍のメーキャップポイントを



- 与える。委員会の半数は、委員長をユース会員とし、副委員長は必ずユース会会員とする。
2. 新入会員は、入会后1年以内に、例会で卓話をするか、受付をすることとする。
 3. オールドとヤングが忌憚なく気軽に交流できる場をもっと創るべし。
 4. 東京キワニスクラブはもっと国際展開すべし。Visit Japan キャンペーンをうって、キワニス会員は、ホー

- ムステイのホストファミリーとなる等。
5. 女性会員は、現在14人、会員総数の7パーセントと異常に少ない。入ってよかったと思わせるセールスポイントを探索すべし。
- 今後、メンバーシップ委員会を中心にこれら提案をフォローすることとなった。
(前メンバーシップ委員長 藤原 武平太)

目黒のさんま祭りでは宮古水産高校を応援してきました 2011. 9. 4

9月4日日曜日目黒駅の駅前で「目黒のさんま祭り」が開催されました。落語の「目黒のさんま」にちなんで、品川区の目黒駅前商店街振興組合が1996年から、焼いたさんまを無料でふるまうお祭りで、さんまは岩手県宮古市から毎年6～7000匹無料で提供されるということです。

東京キワニスクラブでは、東日本大震災によって甚大な被害をこうむった水産業の復興を応援し、将来の日本の水産業のリーダーとなる有為な人材育成を支援するため、被災した水産高7校の支援を行うことにいたしました。このプロジェクトの窓口になっているいろいろ指導ご協力をいただいた宮古水産高校の校長先生から、宮古水産高校の生徒が今年初めて、「目黒のさんま祭り」に参加して、水産高校が作った「さんまの缶詰」を販売するというお話を伺い、応援のため出かけてきました。

9月4日は台風12号の影響でお天気が懸念されましたがなんと晴れ、午前10時に目黒駅に到着するとはやくも目黒通りから焼いたさんまのおいが漂ってきま

す。宮古水産高校がさんまの缶詰を販売するコーナーには、宮古から「1年物マガキコーナー募集」



のコーナーや、宮古のお菓子のコーナーがあり、大変な賑わいでした。このコーナーで買い物をした人にふるまわれた「サンマのつみれ汁」も大変美味で、さんまは当然として大根のおいしさに感動しました。

東京キワニスクラブの水産高校支援は3年間行う予定です。来年も宮古水産高校の生徒さんや宮古市民のみなさんの元気な顔を見られるよう応援し続けましょう。

(会長 堀井 紀壬子)

新入会員オリエンテーション 初めてのキワニスドール綿詰め体験 2011. 9. 14

去る9月14日、新入会員オリエンテーションに先立ち、キワニスドールの綿詰めを体験いたしました。

当日は、私と狩野会員が生徒となり、松本ボランティア活動委員長に加え、吉田事務局長にご指導いただきました。

「最初は、綿全体を五等分し、小さくちぎり、先端を割り箸を使いながら固くして」など丁寧なご指導を受け、一生懸命に詰め



ましたが、その途中にも、松本委員長は数え切れないほどドールを作ったこと、本来ならば、布の裁断、縫い取りから始め、最

後の仕上げまで一人でやらなければならないこと、ドールを手にした子どもたちが心からうれしそうにしていたことなどのお話もきかせていただきました。

私は、元々、親子のような強い関係がなくとも、また自らの利益にならなくても他の人のために何かをしてあげられることが、人間と動物の違い、つまり人間であることの証であると考えていました。今回の綿詰めは、限られた力しかない一個人が他の人のためになる活動をするこの意義を改めて考える機会になりました。

今後は、できれば子どもたちがキワニスドールを手にして、にっこり笑っている場面も経験したいと思います。

松本委員長様、吉田事務局長様、ご指導ありがとうございました。

(会員 綿貫 茂)

キワニスドールがテレビに登場 2011. 9. 1

9月1日(木) NHK教育テレビの番組「グラン・ジュテ」(22:25 ~ 22:50) にキワニスドールが登場しました。

各界で活躍、貢献されている方々をインタビュー形式で紹介している番組ですが、独立行政法人国立成育医療研究センターのCLS (Child Life Specialist) の相吉恵様の仕事の様子を職場を含めて取材、放映されたものです。

この中でキワニスドールが活用されている場面が紹介されました。

国立成育医療研究センターでは以前から当クラブが寄贈したキワニスドールを活用しています。

なお、相吉恵様はキワニスドール・シンポジウムにも参加されるなど当クラブの活動にご協力いただいています。
(前広報委員長 古屋 俊彦)



田園調布学園のブログに 青少年教育賞表彰式・講演会の様子が掲載 2011. 9. 17

9月17日に開催された東京キワニスクラブ青少年教育賞表彰式・講演会の様子が田園調布学園のブログに掲載されました。

当日、同学園の家庭部の学生が参加しました。

表彰式の終了後に、「学生とボランティア活動」のテーマで10グループに分かれて意見交換が行われましたが、そのひとつのグループの代表として高等部2年の学生が意見の取りまとめの発表を行った様子が写真で紹介されました。

同行された間瀬先生が記事にされたものです。

田園調布学園は平成18年に青少年教育賞(特別賞)



を受賞され、「キワニスドールづくり」のボランティアを積極的に支援いただいています。

<前広報委員長 古屋 俊彦>

月刊フィランソロピーに 青少年教育賞表彰式・講演会の様子が掲載 (2011年10-11号)

月刊フィランソロピーの10-11号の「見たこと聞いたこと」の記事として青少年教育賞表彰式・講演会の様子が掲載されました。

キワニスクラブの紹介を含めて当日の進行の様子が簡潔にまとめてあり、受賞された「Live on」(最優秀賞)、「東京少年友の会」(優秀賞)、「STREET 介護 Fighter TOMOYA(SOCIAL WORKERZ)」(優秀賞)の活動内容も紹介されています。

後半の中学生からシニアまで幅広い層が一堂に会してボランティア活動について意見交換した様子も記述され、最後の発表会では「キワニスの皆さんは大人の方が多いですが、私たちのような学生が媒介となって、一緒に活動できるのではないかと思います。」との意見など学生の声も紹介されています。
(前広報委員長 古屋 俊彦)



今後の予定

- オレンジリボン・たすきリレー (2011. 10. 30)
- キワニスドールをつくる会 (広尾看護学校 2011.10.15、板橋看護専門学校 2011.10.15、荏原看護学校 2011.11.19)

キワニスドールの使い方

キワニスドール（キワニスクラブで製作した人形）は、病院で若い患者さんに、これからどんな治療をしていくのか説明するときなどにも使われます。傷口の縫合や、酸素マスクを使用しなければならないような場合、お子さんは驚き緊張して怯えてしましますが、キワニスドールを使って説明されると、これから受ける治療の内容がよく判って、怖さや不安が軽減されるそうです。

子ども達はキワニスドールに注射をしたり、時にはお医者さん・看護師さんに教えて貰いながら手術の真似をしたりして、キワニスドール相手の「ごっこ」遊びをしています。人形を身代わりにこれから受ける

治療を体験させると、子ども達の恐怖が和らぎ、治療を受け入れやすくなるそうです。

キワニスドールが真っ白でノッペラボウなのは、子ども達が好きな色を塗り、顔や洋服を描いて遊ぶことができるように、という工夫をしているからです。大人でも病院は厭な所です。病気の子供達にとってはなお更です。治療は苦痛を伴いますし、見知らぬ環境におかれて子ども達は怯えています。

キワニスドールは、痛くて怖い外来での治療や入院生活を少しでも楽しくできたという、特別な玩具なのです。

キワニスドールの報道とPR活動

日本地区で初めて、東京キワニスクラブでスタートしたキワニスドールは、2003年にNHKラジオで全国放送され、また雑誌では、日本フィランソロピー協会の機関誌や、2004年には診断と治療社の「チャイルドヘルス」12月号、2006年3月に医療関係専門誌「メディカル朝日」2006年3月号にも掲載されました。

2005年3月20日、「キワニスドール」が読売新聞で紹介され、全国の読者から大きな反響がありました。また、2005年8月27日、キワニスドールが1時間の番組として、BS朝日から全国に放映されました。この放映番組を基に20分間にダイジェストしたPR版を制作し、また、2006年から2008年まで日本小

児科学会や日本小児保健学会でキワニスドールを紹介し、キワニスドールの普及活動に力を入れています。2009年4月4日にはキワニスドールシンポジウムを東芝本社39F会議室にて250名の参加を得て開催、ドールをつくる喜び、看護師、医師、看護教育の立場からドールの使い方の報告があり、現場の生の声を聞く機会を得ました。このときの様子を約16分のダイジェスト版DVDにして、希望の方に差し上げています。キワニスドールの活動は東京キワニスクラブのホームページでも紹介しています。第2回は、2010年4月、第3回は2011年5月14日伊藤忠商事10F会議室で開催、約200名が参加しました。

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”（みんな一緒に集まる）に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約90ヶ国、8,000のクラブ、約60万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、

札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田の順に生まれ、現在28のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

社団法人 東京キワニスクラブ 会長 堀井 紀壬子 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>